

[成果情報名] ピワ豊産性品種「涼風」の露地栽培における栽培特性

[要約] 「涼風」は、樹冠占有面積当たり新しょう数が37本と多く、着房率が連年75%以上と高く、10a 当たり換算収量は1.3t 程度と多く安定している。

[キーワード] 「涼風」、新しょう数、着房率、収量

[担当] 長崎果樹試・常緑果樹科

[連絡先] 0957-55-8740、電子メール takami@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 九州沖縄農業・果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

ピワ新品種「涼風」の露地栽培の早期普及を図るため、露地栽培における樹体構成と収量の推移を明らかにし、栽培特性を解明することで早期多収技術の確立に資する。

[成果の内容・特徴]

1. 「涼風」は1樹当たり収量は4か年（樹齢7年生～10年生）で168%増える（図1）。
2. 2002年（樹齢10年生）の10a 当たり換算数量はで1420kg と「茂木」の864kg に比べ著しく多い（図2）。
3. 樹冠占有面積当たり枝数は約37本と多い（図3）。
4. 着房率も2000年から3か年続いて75%と高く安定している（図4）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「涼風」は7年生樹（1999年）、対照の「茂木」は13年生樹を供試した。
2. 「涼風」は矮性であり、連年収量が多いため、施肥量の検討が必要である。
3. 当試験場は、2000年には寒害の被害が多く出るなど、主産地より冬期の気温が低いことから成績の活用にあたっては留意する。
4. 10a 当たり換算数量は、樹冠占有面積当たり収量に樹冠占有率を80%として換算した。

[具体的デ - タ]

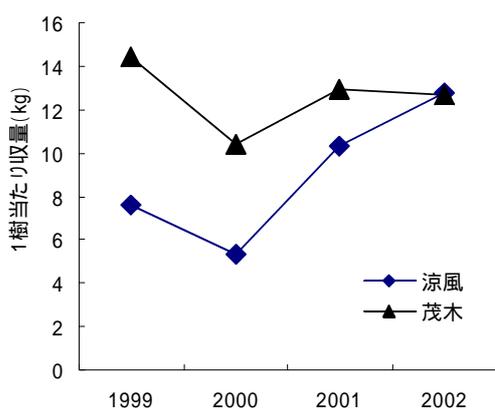


図1 1樹当たり収量の推移

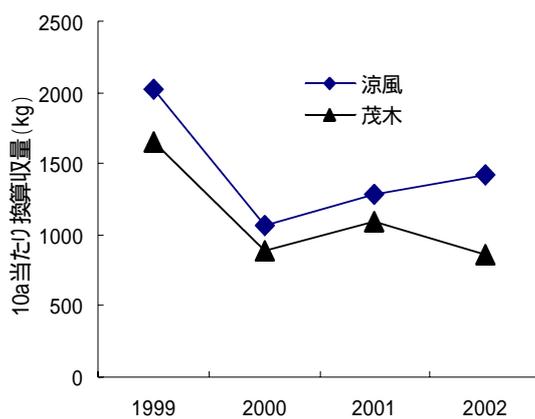


図2 10a 当たり換算収量の推移

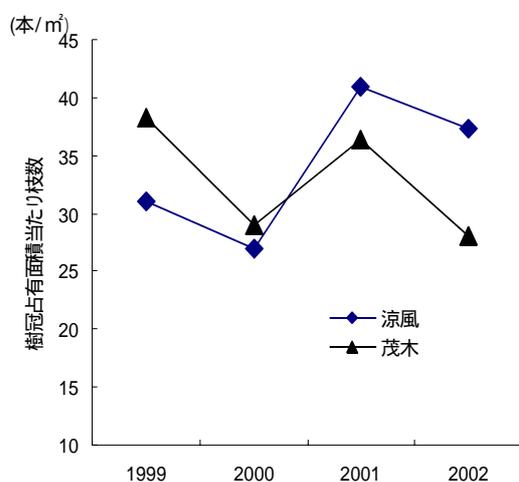


図3 樹冠占有面積当たり枝数の推移

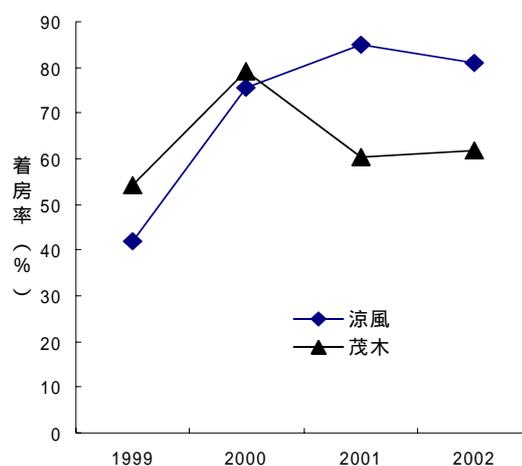


図4 着房率の推移

[その他]

研究課題名：新品種「涼風」「陽玉」の栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成14年度（平11～15）

研究担当者：高見寿隆、山下義昭

発表論文等：なし